

# 三浦勲郎教授、学長代行に



吉田学長が休職したため、三浦勲郎ドイツ語教授が学長代行に六月一日付で発令された。三浦学長代行は、引き続き図書館長をも兼ねることになる。学長代行就任にあたり三浦先生から寄稿していただいたので、ここに掲載する。

## 近況の報告と感想

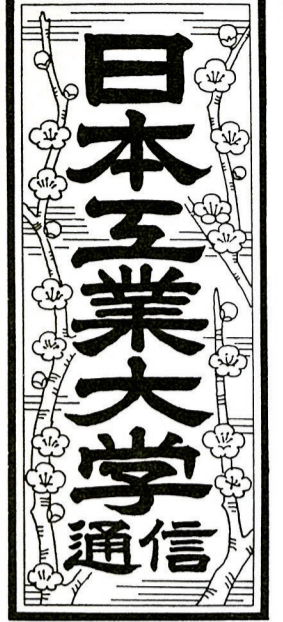
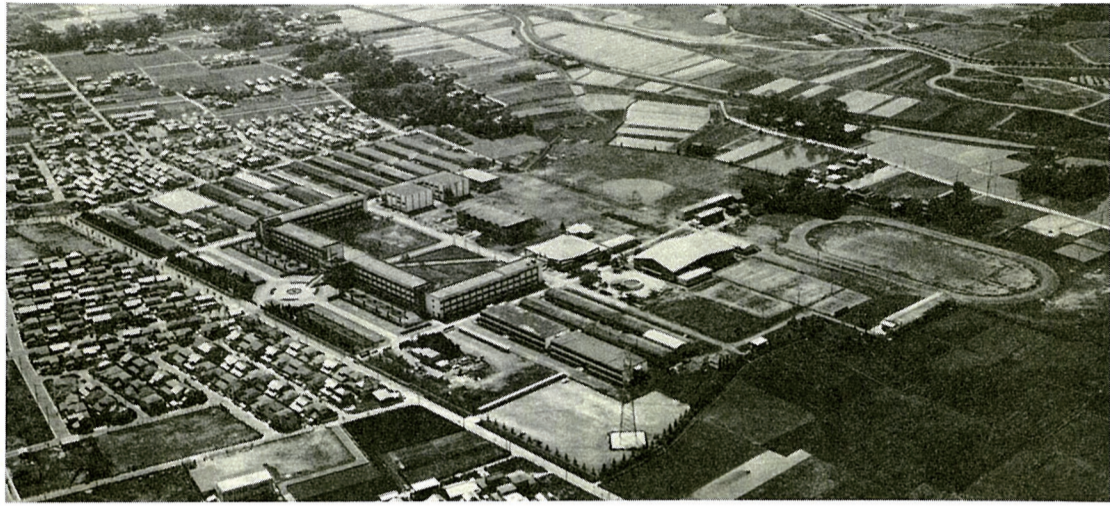
大学をめぐる最近の状況を多少一みたい。感想と書いたのは、考えの感想を混じえながら、報告としてとするには、まだ不十分なところがあるからである。

今年度の施設設備の中で一番目につくのは、中庭に騒音をまきちらしても半年になる図書館書庫の増築である。これは必要に迫られたからで、そのほかの意味はない。現在の蔵書七万五千、他の工業大学に較べて、もはや遜色のない数字である。今後の課題は、蔵書数の目標をどこに置くか、どのような方針で取書し、工業大学の図書館としてどのような特色をうちたてるか、にある。

マイコン実習室が完成した意味は大きい。すでに学生の実習は年度当初から始められており、夏季休暇中には工業高校の教員を対象にした講習会、一般を対象にした講習会なども開かれるはずである。工業高校の出身者を中心とした本学は、高度の技術教育を建学の精神として挙げている。マイコン実習室はこの精神に最もよく沿った施設の一つであろう。

また講習会等による学外へのサービズによって、本学は開かれた大学にむかって、大きく前進することになる。これもわれわれに与えられた使命の一つである。なおこのシステムが本学の教員の開発したものであることを、誇りをもって述べておかなければならない。

今年度整備するものに材料試験センターがある。来年四月から動き出す予定である。これが完成すれば、センターは機械工作センター、電算機センター、電気実験セ



発行所  
日本工業大学  
広報課  
埼玉県南埼玉郡宮代町  
郵便番号 345  
電話 04803 (4) 4111

Clean & Green  
緑化計画進行中  
学内の美化に協力を

ンターと合わせて四つになり、センター構想は一応完結する。センターの意味は、施設設備の有効な利用を計る点にもあるが、むしろ各学科が、それぞれ自主性を保ちながら、たがいに協力して研究と教育を推進することにある。

吉田学長には、かならず複数の学部が併設されてきた。併置することにより、その講義を聴かないまでも、他学部を感覚的に理解し、全体の中で自己の専門を正しく位置づけることができるようにするためである。

本学は総合大学ではないが、いわば総合工業大学として四学科が併置され、もちろん教養科も置かれていた。教養科は四学科のベースである。われわれはこのような構成を便宜的なものと考え、組織にしなければならぬが、そのために果たすセンターの役割は非常に大きいものがあると思われる。

後援会では、二年計画で大規模な緑化計画が進められている。すでに中庭をはじめとして、実験棟の間まで、かなり緑が濃くなってきた。計画の完了する来年度末には、学内の景観は一変するであろう。緑化計画は教育環境の整備であり、教育そのものであるとも言えることである。美しく整備された環境の中でこそ、研究の成果がつきつきと実ることが期待できるし、学生諸君は卒業して二十、三十年たつてから、文字とおりの学園として、懐かし思い出していただくことであろう。このような計画を積極的に進めていただいている後援会の方々には、深くお礼を申し上げなければならぬ。

今年に入ってから、同窓会が一つにまとまった。これまで学科別に作られていたのが、一つにまとまったのである。第一回卒業生が出たのが昭和四十六年、もう八年前である。後援会も第一回卒業生を出した。全国から集まってきた学生諸君は、ふたたび全国に散らばって、その数おおよそ五千、それぞれ責任ある職場で働いている。

は現代彫刻家の裸像になるはずである。はじめは図書でもという話であったが、そういう白くつきの図書は決定も管理もむずかしいので、水に残り、卒業生の寄贈であることがすなわける彫刻になったのである。これも後援会の緑化計画におよび教育環境の整備であり、しかも同窓生の手によって行なわれたところに、大きな意味がある。大学に歴史ができた、そのことをこの二基の彫刻によってしみじみと感ずるのである。

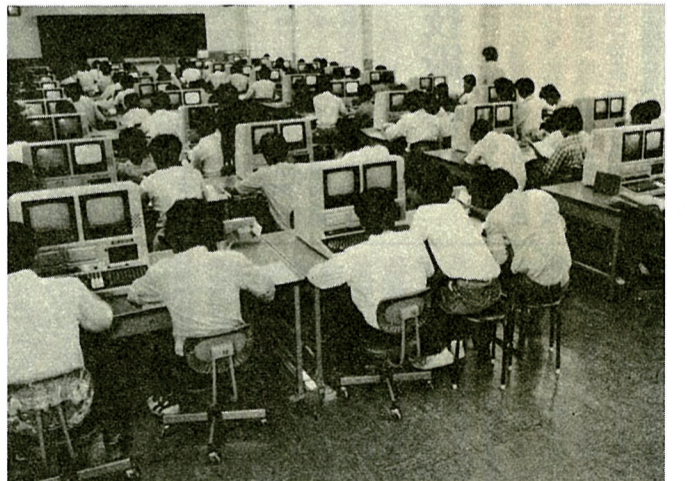
一昨年、東工学園創立記念式典が催されたときは、大学も創立十周年の記念行事を盛大に行なった。それは単に数字の切れ目に来たからではなく、大学の基礎がよいと確立したことを内外に誇示するものであった。研究と教育の施設も一応形を整えてきた。

もとの工業大学に較べても、けつて見劣りするものではない。その設備を利用した研究活動も近年とみな活発になっており、それはまた望ましい教育環境を作っている。前に述べたように、果立っていた卒業生もみなつばに活躍している。われわれは大学創設の最も苦しい時期を乗り越えたのである。

もう一つ残された課題はいろいろある。施設設備は一層充実しなければならぬし、教育もまだまだ改善の余地があるであろう。しかしここで一番大切なことは、過去を踏まえて、はっきりした将来の展望を持つことであると思う。われわれは遠い将来の本学の姿を、はっきり頭に描いて、その目標に向かって善美に一歩一歩前進していきたい。そしてまた数字を持ちださず、この次の近い目標は創立二十周年、すなわちあと八年さきである。

本学では工業高等学校（工業課程）を有する高校と連携を保ち、同者間での工業教育の発展を高めるために、地道ながらも継続して活動を行ってきたが、このため、東工学園に職の教員と、本学を卒業した工業高校の教員が中心となって、「日本工業大学工業教育

## 全国工業高校長協会等主催 マイコン講習会を開催



## 特別奨学生制度が設けられる

本学では、全国の工業高等学校を卒業もしくは卒業見込みの者のうちから、特に学業成績が優秀な者、特に優れた特長や特技をもっている者や各種競技で全国大会の入賞者などを推薦対象とした「日本工業大学特別奨学生制度」を設けた。これら被推薦者は、本学の教育の振興や学風の高揚、さらには学術文化の発展を促すのにふさわしい人物が条件。選考は教務部長を委員長とする「特別奨学生選考委員会」で行われ、合格者はその段階に応じて学費等の全額免除か、一部免除の特典が与えられる。しかし、入学後、特別奨学生としての特長が失われた場合はその資格が取り消される。

- 【選考基準】
- 1 学業成績が特に優秀で、身体思想ともに健全であり向学心堅固な者
  - 2 学業成績が優秀で特に優れた特長・特技を有し、本学において、その伸張が期待できる者
  - 3 学業成績良好であり、かつ全国高等学校選手権大会等において入賞の経験を有し、本学においてその伸張が期待できる者（規程施行細則から）

## 「日本工業大学工業教育研究会」発足

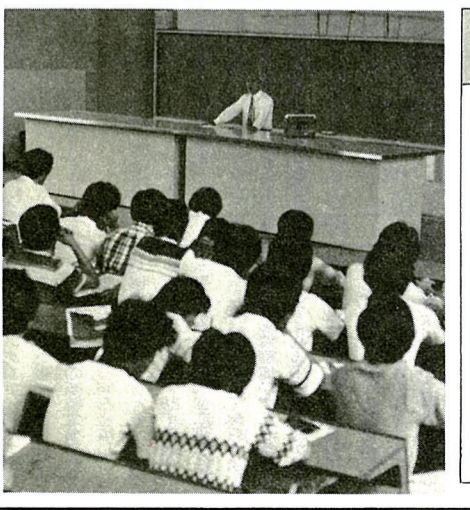
研究会が発足されることには、八月四日に発会式が行われ、正式決定する。これは、工業教育を共通テーマとし、それに関する研究や調査情報交換などを行い、会員間の研修を通して相互の親睦を計るの目的である。現在、本学を卒業した工業高校の教員は、一〇八名に及んでいるが、その分布は関東周辺に集中しているため、当座はこのブロックから同会の幹事を選定することになっており、将来は全国的な規模で、同会を盛り上げていくことも考えられている。

六月にオープンしたマイコン実習室は、現在、機械工学科一年のコンピュータシステム及演習（勝又先生担当）、電気工学科一年の「コンピュータ工業」（橋爪先生担当）のほか、機械工学実験の一項目にも利用されている。近い将来には、管理体制の確立を急ぎ、卒業計画におけるマイコンの利用や、電算機に興味をもつ一般学生に対してもその利用に役立てることが計画されている。



三浦勲郎学長代行(左)が通訳

特別講演  
「ドイツの生活と文化」  
ドイツ人版画家  
ヨハンネス・アイト氏  
「スポーツと人生」  
日本ハード副社長  
守田貞義氏



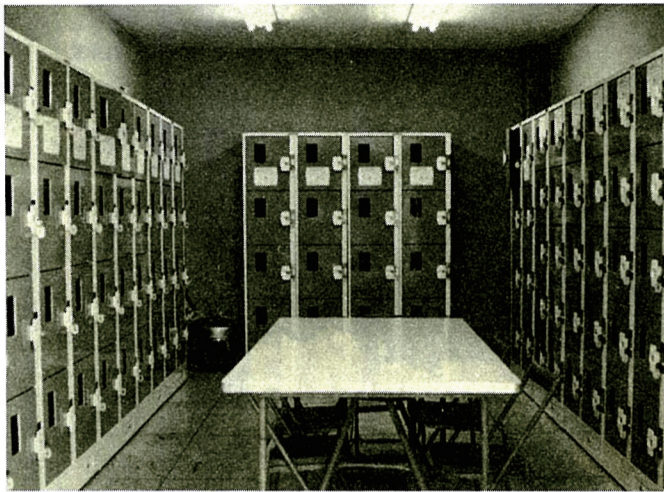




# 図書館内の模様がえ進む

## 新型ロッカー設置される

図書館では、二月末から三月にかけて館内の模様替えを行いました。まず、これまでの館内の配置を簡単に記しておきます。一階は開架式閲覧室で、ロビー奥の入口に接してカウンターが置かれ、書籍・雑誌等の殆どが配架されておりました。入口に近い一階には二階閲覧室が設けられておりました。



このような形式は、他大学の図書館でも多く見られますが、本学の図書館では、自由利用と二階閲覧室が、自由利用と二階閲覧室との間に、椅子を配置することを原則として、一階をガラスのパーティションで「第一閲覧室」と「第二閲覧室」とに区分しました。「第一閲覧室」には、雑誌、参考図書、美術書等を配架し、「指定図書コーナー」を新設しました。「第二閲覧室」はカウンターを通過して自由に出入りでき自由室としても利用できるよう配架しました。二階は「第二閲覧室」として、専門図書、一般図書、バックナンバー等を配架し、入口にサービス・カウンターを設けました。文庫本のような小冊子は、二階ロビーに配架し、一階入口右手にロッカーを設けました。

## 書架と書庫

過去、わが家の書架・書庫を整理しようと思った。コビ・カタログ・地図・雑誌書籍等が、乱雑に積み重なったり、あるいは本と棚板の間のわずかな空間にため込まれている状態をみると、収容能力をばかか超えていることは一目瞭然。この中で、コビ類の収納に頭を痛める。家具屋を探してもすっかり木製のファイリングキ

ヤシネットは見当たらず、かといってケイブル製では、和式の部屋に似合っていない。複製機の普及により本や報告書等のコピーが簡単に入手できるようにになり、会議や委員会などに提出される資料のコピーだけでも相場の量である。これらのコピーも処分して往つて積んでおくと、すぐに大山・小山とな

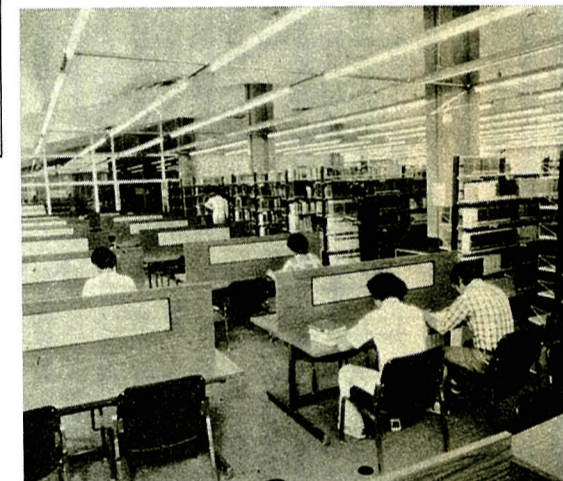
り机の上が一杯になる。これらを書架に移すと、そこでもだんだんと占有面積を駆け、始末に負えない代物となってくる。そこで、手元になくても済むような本や資料には退去願うべく、ダンボール箱に詰め込んで物置に移した。これで書架も整理され少々余裕ができた。安堵したのも束の間、未だ子供部屋の収納棚に、私の雑誌・アルバム・大型美術本の類が大量に溜められているのを思い出した。これも、前々からの家主である子供が追い立ててくれた。これを思うと一日の労働もつきのしなない状態だ。一応終了した。ここで、犬養道子氏の著作の中に蔵書を主題として書かれて

いる頁を思い出した。文章力に乏しい私は、内容をうまく表現できなかった大略次のような事が書かれていた。彼女は、四年間に三度、書架を追加された。次には、書庫を建てようかと考えられるが、その書庫もいずれ一杯となる日がある。そこで大決心をされ、「必要時には図書館に行けばよい」とい

ておられた。必要時には図書館に行けばよい。これは、ほんの少しの愛蔵書をのぞいてみんな売却してしまいい、少々悲しさを覚へながらもホッとした。これで個人的な悩みは、一応解決したことになる。しかしながら膨大な量の資料・書籍を所蔵する図書館も書庫の問題に悩んで、ケタがたい悩みをもっている。その解決手段として

（難波恒夫・建築学科助教）

休み時間の中貸出。返却は、館員の休憩時間を交替制にすることに決めた。以上がこの度行った第一次の模様替えで、第二次としては、夏季



休眼中に増築した書庫への洋書バックナンバーの移動と整理。貴重図書室の新設、A・V室の整備。および、二階のサービス・カウンターの整備を予定しています。

## 後援会 地域別会員懇談会七会場

後援会（会長森川大成氏）では、昭和四十八年以降遠隔地の父兄と大学とを結びつけ直接的な話し合いの場をつくる地域別会員懇談会を開催し、出席された父兄より絶大なる好評を受けている。この会では、父兄が直接大学の各課の教員と個人面談を行ない、マイクフィルム化が進められているが、これも一時の解決法で、年々増加するマイクフィルムをどうするかという問題が残されている。この問題は、地球上書籍の存在する所では共通の悩みであろう。現在、本学の図書館でも書庫の増築が行われており、また他大学の図書館でも増築あるいは計画が盛んに進められているようである。これらと同様に先にはまた同じ困難に取り組まねばならないであろう。

現代は、まさに過飽和情報化時代である。この情報を活用し、問題を乗り越えていく。これからは、個人の情報も流通し、個人の情報も流通し、個人の情報も流通する。これからは、個人の情報も流通し、個人の情報も流通する。

9月20・21日、後期履修申告

恒例の盆踊り大会が、六月三十日と七月一日の二日にわたって催された。主催者ある本学体育会では、カラフルなホスタを作成して各方面に呼びかけた。当日は、学生たちの、手づくりの味を売った。景気

### 戦績

春季大会から

▽バレーボール	関東大学リーグ戦(六部)	日本工大3 15 15 15 6	0防衛大
日本工大3	15 15 15 10	0東京理大	15 15 15 10
日本工大3	15 15 15 10	0横浜市中大	15 15 15 10
日本工大3	15 15 15 10	0一橋大	15 15 15 10
日本工大3	15 15 15 10	1学習院大	15 15 15 10
▽サッカー	関東大学リーグ	日本工大3 3 0	0成蹊大・工
日本工大3	1 0	0千葉工大	1 1
日本工大3	1 1	0武蔵工大	1 1
▽軟式野球	関東大学リーグ(四部)	日本工大3 4 1	0東邦大
日本工大3	1 0	0東洋大・工	2 2
日本工大3	2 2	0早大・理工	2 2

### 後援会文庫について

後援会より、本年度も図書を寄贈して頂くことになりました。選書の基本方針は、本年度より特定主題を決めて特色のある書籍を採書することになりました。そこで本年度は、ネパール関係図書、書誌類、地方史関係図書を重点をおいています。また、本年度より特別図書の寄贈が決められたが、この選定については、本学として他大学に誇れる図書を、今後二十年間、同一テーマ(例えば、産業考古学、技術史等)のものを受書するという大意思の長い収書活動計画。現在、実行委員会の設立を進めています。

恒例の盆踊り大会が、六月三十日と七月一日の二日にわたって催された。主催者ある本学体育会では、カラフルなホスタを作成して各方面に呼びかけた。当日は、学生たちの、手づくりの味を売った。景気